

平成 16年 3月期 第3四半期業績の概況(連結)

東洋紡績株式会社

コード番号 3101

(URL <http://www.toyobo.co.jp>)

代表者 取締役社長 津村 準二

問合せ先責任者 管理部 部長 高橋 寛

米国会計基準採用の有無 : 無

(上場取引所 東証、大証 各第1部)

(本社所在地 大阪府)

TEL (06) 6348 - 3091

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

- (1) 売上高(又はこれに相当する事項)の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無
- (2) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項
連結子会社数 56社 持分法適用非連結子会社数 1社 持分法適用関連会社数 17社
- (3) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況(平成15年4月1日～平成15年12月31日)
連結(新規) 3社(除外) 1社 持分法(新規) -社(除外) -社

2. 平成16年3月期第3四半期の業績概況

(1) 連結経営成績の進捗状況(平成15年10月1日～平成15年12月31日の3ヶ月間)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成16年3月期第3四半期	89,236	(-)	5,896	(-)	3,873	(-)
平成15年3月期第3四半期	-	(-)	-	(-)	-	(-)

(2) 連結経営成績の進捗状況(平成15年4月1日～平成15年12月31日の9ヶ月間)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成16年3月期第3四半期	272,832	(-)	18,155	(-)	13,087	(-)
平成15年3月期第3四半期	-	(-)	-	(-)	-	(-)
(参考)平成15年3月期	376,377		19,721		10,500	

(注) 当第3四半期は四半期業績開示の導入初年度のため、前年同期の数値及び前年同期比の記載を省略しております。なお、参考としまして前連結会計年度の数値を記載しております。
金額表示は、平成15年3月期は百万円未満切捨、平成16年3月期第3四半期は百万円未満四捨五入により表示しております。

当第3四半期の経営環境は、緩やかな回復基調にあるとはいえ、依然として厳しい状況が続きました。このような中、当社グループの連結経営成績は、上記のとおり、売上高が272,832百万円となり、利益面でも営業利益、経常利益がそれぞれ18,155百万円及び13,087百万円となるなど、概ね当初の計画どおりに推移しました。

当第3四半期(3ヶ月間)の事業の種類別セグメントの概況は次のとおりです。

繊維事業は、不採算分野の縮小と産業資材や機能衣料の拡大の方針のもと、汎用衣料用途などを縮小しながら、エアバッグ用基布などの産業資材分野や生活資材分野の増収を図り、売上の落ち込みを最小限におさえました。しかしながら、輸出比率の高いタイヤコードやスパンデックス繊維“エスパ”などへの円高の影響もあり、全体としては減収となりました。

化成品事業は、フィルム、樹脂、電子材料等、順調に推移し、全体としても増収となりました。フィルム部門では、包装用フィルムは暖冬の影響もあり、オレフィンフィルムを中心に各素材とも販売が伸び悩みましたが、工業用フィルムは液晶パネル等の光学用分野を中心に引き続き販売が好調に推移しており、大幅増収とすることができました。樹脂、電子材料等では、高機能性樹脂“バイロン”は各種工業用接着用途が順調に推移し、夏場苦戦した塗料用途も缶の需要期である冬場に入り需要が回復した結果、増収となりました。成型用樹脂も自動車分野を中心に好調を持続しており、売上が拡大しています。また、電子材料はデジタル家電製品の末端需要が好調なことから、DVD、PDPに使用されるFPCの引合いが旺盛で、大幅増収となりました。

バイオ・メディカル・機能材事業は、バイオ・メディカル分野では、円高の影響のほか、大学の独立行政法人化を控えての買い控えの動きから、バイオ関係は若干の減収となりましたが、人工腎臓用中空糸膜や海水淡水化膜は順調でした。機能材部門では、超高強力ポリエチレン繊維“ダイニーマ”は釣糸、ロープ、ネット用途等の好調に加え、設備投資の効果もあり、増収となりました。また、長繊維不織布は土木、建築、自動車、各種資材向けの需要が底がたく、堅調に推移しました。

エンジニアリング、不動産、情報処理サービス、物流サービス等、その他事業も、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

3. 平成16年3月期の連結業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	377,000	17,000	7,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 10円 76銭

(注) 当初予想と変わりありません。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後種々の要因によって予想数値と異なる場合があります。

連結(要約)損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	平成16年3月期 第3四半期 〔自平成15年4月1日〕 〔至平成15年12月31日〕		平成15年3月期 通期 〔自平成14年4月1日〕 〔至平成15年3月31日〕	
		金額	百分比	金額	百分比
			%		%
売上高		272,832	100.0	376,377	100.0
売上原価		213,180	78.1	299,488	79.6
売上総利益		59,652	21.9	76,889	20.4
販売費及び一般管理費		41,497	15.2	57,167	15.2
営業利益		18,155	6.7	19,721	5.2
営業外収益		5,473	2.0	5,599	1.5
営業外費用		10,541	3.9	14,820	3.9
経常利益		13,087	4.8	10,500	2.8